令 和 8 年 度

入学者選抜学力試験問題

前 期 日 程

国　　語

注　　意

1. 解答は別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. **文学部志望者**はⅠ・Ⅱ・Ⅲを、**生活環境学部志望者**はⅠ・Ⅱを、解答すること。
3. **文学部志望者**は、解答用紙の表紙を含むすべてのページの※印欄に、
   生活環境学部志望者は、解答用紙の表紙及び1ページと2ページの※印欄に、
   受験番号・氏名を記入すること。
   受験番号は、本学受験票の受験番号を記入すること。
   ※印欄以外の箇所には、受験番号・氏名を絶対に書かないこと。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
5. 総ページ数
   問題冊子―11ページ
   (うち白紙―1，9ページ)

著作権保護のため本文掲載を省略し，出題箇所の明示のみとします。

I つぎの文章について後の問に答えよ。（文学部・生活環境学部）

人は目の前に　　を優先する時代であった。

しかし　　を知らせているのである。

この時代の

い戯れこそは、　　のである。

ところで　　という語は、[2]一方でただちに　　が問いかける快[1]　　のではなかろうか。

の機能にオ[A]っているのである。

著作権保護のため本文掲載を省略し，出題箇所の明示のみとします。

を語るのである。

という意味をもつ。[3]イロニーは、

過大と過小、自慢とヒゲ、B＿＿＿＿C＿＿＿＿コチョウと控え目、

を実現して行くのである。

すぐれて本質的である。[4]その影は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿にすでにある。

をつくり教えを

な関係が動

D＿＿＿＿タれる

物寓話の背景にある。

著作権保護のため本文掲載を省略し，出題箇所の明示のみとします。

寓話の

イロニーの

、深々と植えつけられているのである。

、むしろ積極的にバクロする[E]

がお互いに異質だったからであるほかはない。

イロニーを

の関係を際立たせるのに好都合であった。

一七世紀の

の

力が支えていた。

、と囁(ささや)きかける。[5] 動物寓話の

を訴え

かけるものである。動物寓話は

実践する物語形式

なのである。

（樋口桂子『メトニミーの近代』による）

（注）○『アカデミー・フランセーズの辞典』――フランスの学術組織「アカデミー・フランセーズ」が編纂した国語辞典。
○エンブレム本――ルネサンス期以降のヨーロッパにおいて広く読まれた寓意図像集。　○ソクラテス――古代ギリシアの哲学者。
○アリストパネス――古代ギリシアの喜劇作者、詩人。　○デカルト――一七世紀フランスの哲学者、数学者。

問一　傍線部A～Eのカタカナを漢字に改めよ。

問二　傍線部1について、このように言えるのは、著者がどのような前提に立っているからか、説明せよ。

問三　傍線部2について、どのような点で「ソクラテスのイロニーの手法を想起させる」のか、説明せよ。

問四　傍線部3について、動物寓話における「見かけ」を修辞の観点から説明せよ。

問五　傍線部4について、「その影」は「イソップその人」のどのような点に認められるか、説明せよ。

問六　傍線部5について、「われわれの目をくらまそうとするわざとらしさが、裏に真実を隠していることを訴えかける」とはどういうことか、本文中の「セミとアリの寓話」を用いて説明せよ。

問七　二重傍線部について、

（a）「類似とは相違の別名であり、逆に相違とは類似である」とはどういうことか、説明せよ。

（b）「イロニーの力が支えていた」と言えるのはなぜか、説明せよ。

Ⅱ　つぎの文章について後の問に答えよ。（文学部・生活環境学部）

（藤原良門の息子高藤は、ある日、鷹狩りに出かけた時、雷雨にあい、見知らぬ人の屋敷で雨宿りをしたところ、屋敷の主から親切なもてなしを受け、そのままその家に泊まることになった。）

風の声もなほ激しく旅の夜床も寂しきに、一目見えつる人の事様の、心にかかりておぼされければ、主の男を召して「かくて独りあるなん寂しきに、ありつる人近くさぶらへかし」とのたまはすれば、かしこまりて、まかり出でぬ。A とばかりありて、この女、ありつる方よりさし出でながら恥ぢしらひたるさまにて、近からぬほどにさぶらふを、「今少し」とのたまふに、何心なくさし寄りたるけしき、せんかたなく、らうたかりければ、都におぼさんことも忘られて、一夜の雨宿り嬉しくぞおぼされける。長月の頃なりければ、菅の根の長き夜すがら、草の枕に置く露の間もまどろみ給はず、行く末かけて契りおきて、夜も明けにければ、かくてあるべきならねば、佩き給へる太刀を朽ちせぬ形見に留め置きて、立ち出で給ひぬ。

来栖野のほどにうち出で給ひければ、御供なりし人々、ここかしこより来集まりて、行方も知らで尋ね惑ひ奉りつるに、「いかでかくは」と喜びあへり。

父の内舎人の御もとに帰り給ひつれば、「わが若かりし時、鷹をなん好みしを、故大臣あながちに禁め給ふことも無かりしまに、我も日頃は、さてこそ過ぐしつるに、かくあやしきおぼつかなさも出で来ぬる上は、今は、かけはなれたる遊びはあるまじき事なり」とはしたなく禁め給ふもことわりなれば、狩り場の小野に出で給ふことも途絶えにけり。たちかへり訪はんとこそ B たのめおきしに、ありし馬飼ひの男さへ遠き国へまかりにければ、雁の翼だにも通はず、露の玉梓のたよりも無くて、年月をぞ送り給ひける。かくて虚しく過ぐるほどに、年の六年にもなりにけり。

女君は、浅からず契りおきて出でにし人の、御面影は、つかの間も身を去らず。さりともと待ちわび給へど、鶯帰り燕去りて、送り迎ふる春秋は重なれども、悄然たる思ひは尽くる事無くて、明かし暮らし給ひける。

高藤は我が世に成り給ひても、かの女を忘れ給はず、ひととせの御供なりし馬飼ひの男も田舎より帰り上りにければ、ただあらん僕よりも懐かしうおぼして、近く召し寄せて、「ありし狩り場の雨宿りは覚えしや」と問ひのたまふに、[2]忘れ侍らぬ由申すに、嬉しくて、御供の人など多からぬさまにて急ぎ出で給ひぬ。

阿弥陀ヶ峰といふさがしき道を越えて、ありし山里におはしつきぬ。主の男、心惑ひして急ぎ出で来たれば、「ありし女君は未だありや」と問ひ給ふに、侍るよし聞こえて、やがて昔の住みかへ導き奉りつ。枕定めし寝屋の方におはしたれば、よろづ昔に変はらず女君は几帳の帷子にはた隠れて居給へり。年頃の物思ひにや面痩せたるものから、C ありしよりもねびまさりて、らうたくぞ見えける。光も差しそふさまなり。心ならぬ途絶えをとかくのたまひければ、何といふいらへも無けれど、おさふる袖にもかかはらぬ涙の色にぞ、[3]心の内も推し量られける。[4]かたはらに五つ六つばかりなる女君の、えも言はずうつくしき、添ひ給へる、心得がたくて、「いかなる人の名残にてか」と問ひ給へども、いらへ給ふことは無くて、いとど涙の色はまさりゆけば、いとあやしくおぼして、主の男に「かれは誰にか」と尋ね給ふに、「ひととせ見え奉り給ふて、ただならずなり給ふて、出で来給へるなり」と申すに、この世ひとつならぬ御契り、いとあはれにおぼさるべし。[6]留め置き給へりし秋の霜、置き所までたがはぬもありがたくぞおぼされける。

（『さかへいやます物語』による）

（注）
○一目見えつる人――高藤が雨宿りした屋敷の主の娘。　○来栖野――京都市山科区の小栗栖（おぐるす）。　○故大臣――良門の父藤原冬嗣。
○悄然たる――しょんぼりしている。　○我が世――自分の思い通りになる世。　○ひととせ――先年。
○阿弥陀ヶ峰――京都市東山区の東山三十六峰のうちの一つ。

問一　二重傍線部A「とばかりありて」、B「たのめおきし」、C「ありしよりもねびまさりて」をそれぞれ現代語訳せよ。

問二　傍線部1について、「禁め給ふ」とあるが、

（a）　誰が誰に何を「禁め」たのか、簡潔に答えよ。

（b）　なぜ「禁め」たのか、詳しく説明せよ。

問三　傍線部2について、「申す」とあるが、誰が誰にどのようなことを言ったのか簡潔に説明せよ。

問四　傍線部3「心の内」は、誰のどのような心情か、詳しく説明せよ。

問五　傍線部4を現代語訳せよ。

問六　傍線部5を主語に注意して解釈せよ。

問七　傍線部6について、

（a）　「秋の霜」が指すものを明らかにしつつ、現代語訳せよ。

（b）　どのようなことを言っているのか、本文全体を踏まえて詳しく説明せよ。

Ⅲ つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。（**文学部のみ**）

趙広、合肥ノ人、本李伯時ノ家ノ小史。伯時作レ画ヲ、毎[a]使レ侍ニ左右一。[1]久レ之ヲ遂[b]善レ画ヲ、尤モ工ニシテレ作ニ馬ヲ、幾ほとんど能クス乱レ真ヲ。[2]建炎中陥ルレ賊ニ。賊聞キ其ノ善クスルヲレ画ヲ、使メントスレ図ニ所ノ携ヘタル婦人ヲ。広毅然トシテ辞スルニ以テスニ実ハルコトヲ不レ能ハ画ク。[3]脅カスニ以テスルモニ白刃ヲ、不レ従ハ、遂チテ断ニ右手ノ拇指ヲ遣リ去ラシム。[4]而レドモ広平生実ハ用フニ左手ヲ一。乱定マリ、惟ダ画ニ観音大士ヲ[c]而已。又タ数年シテ乃チ死ス。[5]今士大夫所レ蔵伯時観音、多広筆也。

（宋・陸游『老学庵筆記』による）

（注）○趙広――人名。　○合肥――地名。
○李伯時――人名。文人・画家として知られる北宋の李公麟（伯時は字）。馬や仏の画を得意とした。
○小史――下僕。　○建炎――南宋の高宗の元号。　○賊――宋王朝を侵略した異民族の軍隊。　○拇指――親指。
○遣去――追い払う。　○観音大士――観音菩薩。

問一　二重傍線部ａ～ｃの文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。

問二　傍線部1を漢字ひらがなまじりで書き下せ。

問三　傍線部2について、「幾能乱真」とはどういうことか、説明せよ。

問四　傍線部3を現代語訳せよ。

問五　傍線部4について、「賊」はなぜこのようにしたと考えられるか、説明せよ。

問六　傍線部5について、この文は何を伝えようとしているのか、説明せよ。

出典

出題対象 学 部 等	科目	大問 番号	著者名	作品名	出版社名	掲載ページ	出版年度	改変 有無
文学部 生活環境学部	国語	Ⅰ	(ﾌﾘｶﾞﾅ) ヒグチ ケイコ 樋口 桂子	(ﾌﾘｶﾞﾅ) メトニミーノキンダイ メトニミーの近代	三元社	pp.60-64	2005	有
文学部 生活環境学部	国語	Ⅱ	(ﾌﾘｶﾞﾅ) （不詳）	(ﾌﾘｶﾞﾅ) サカヘイヤマスモノガタリ さかへいやます物語	矢澤由紀「〈資料紹介〉中央大学図書館蔵 伝北村季吟筆『さかへいやます物語』の紹介と翻刻」(『中央大学国文』68号)	pp.93-103	2025	有
文学部	国語	Ⅲ	(ﾌﾘｶﾞﾅ) リクユウ 陸游	(ﾌﾘｶﾞﾅ) ロウガクアンヒッキ 老学庵筆記	中華書局	p.18	1979	有